内郷村報

天法人則ニ從順ナルベシ

# 天照節制定ニ關スル請願

天祖　天照皇大神ノ御神靈ヲ祭祀シ、御聖德ヲ仰讃シ、併セテ建國ノ精神ヲ涵養スル爲ニ、特ニ祝祭日ヲ制定シ、之ヲ天照節ト稱セラレン事ヲ請願イタシマス

## 理由

天照節トハ、恐レ多イ次第デアリマスガ、私共ノ稱名デアリマス。サレバ之ニ優ル名稱ガアリマスナラバソレニ變更イタシタイト思フノデアリマス。

抑々我ガ大日本帝國ノ建國ノ大本、國體ノ淵源、敬神ノ大義ハ、天祖　天照皇大神ノ　天孫瓊々杵尊ニ降シ賜ヘル神勅ト、三種ノ神器トニ由來スル事ハ、コヽニ改メテ申ス迄モナイ事デアリマス。斯クテ建國以來悠々三千歳、皇統連綿、君民一體、世界無比ノ國體ヲ顯現シテ、今日ノ偉大ヲナシタモノデアリマス。サレバ我國家ニ於テハ　天照皇大神ヲ、伊勢皇大神宮ニ奉齋シマツリ、帝國ノ宗廟トシテ、上御一人ヨリ下萬民ニ到ル迄、國ヲ擧ゲテ之ヲ尊崇シ奉リ、之ガ祭祀ハ、二月ノ祈年祭、五月、十月ノ神御衣祭、六月、十二月ノ月並祭、十月ノ神嘗祭、十一月ノ新嘗祭、式年ノ御遷宮祭、臨時ノ奉幣祭ヲ大祭トシ、日別朝夕大御饌祭歳旦祭、元始祭、紀元節祭、風日祀祭、天長節祭ヲ中祭トシ、其他數々ノ小祭ヲ行ハセラルヽトイフ樣ニ鄭重莊嚴ノ極ヲ致サレ、降ツテ國民各戸ハ、其大麻ヲ拜受シテ、之ヲ神棚ニ奉祀シ、崇敬ノ至誠ヲ致シテ居ルノデアリマス。

又一面、我國家ノ祝祭日ヲ數ヘルニ、四方拜ヨリ大正天皇祭ニ到ル迄十二日ヲ算シ、内四方拜、紀元節、天長節、明治節ヲ四大節ト稱シ、特ニ全國ニ於テ一齊ニ式典ヲ擧ゲ、其祝祭ヲ行フ事ナツテ居リマス。

茲ニ私共ハ、上述セル　皇大神宮ニ於ケル祭祀ト、國家ノ祝祭日トニ就イテ深ク惟ミマスルニ、皇大神宮ニ於ケル大中小祭ハ、單ニ皇大神宮ニ於ケル祭祀ノ觀アツテ、一般國民中、之ヲ存知スル者ハ、關係者以外殆ト皆無トモ申スベク、次ニ國家ノ祝祭日ニ於テハ、四方拜、元始祭、春秋皇靈祭、神嘗祭、新嘗祭等何レモ　天照皇大神ノ御神靈ヲ仰讃スルハ勿論デアリマスガ、ソレ〴〵其祝祭日ニ相當スル由來ニ基キ、其ニ因メル祝祭ヲ行フニ過ギナイデ、ソレモ宮中以外、一般國民ハ之ヲ關知セザルガ如キ觀ガアルノデアリマス。

之ヲ要スルニ、全國民ヲ擧ゲテ一齊ニ　天照皇大神ヲ祭祀スル日ハ、無イトイフ事ニナルノデアリマス。斯クテハ、畏クモ建國ノ神勅ヲ賜ハリタル御本體ニ對シ奉リテ、眞ニ恐レ多イ次第デハナイカト恐察シ奉ルノデアリマス。殊ニ建國ノ精神ニ還レト絶叫セラレツヽアル今日ニ於テ、尚一層痛切ニ考ヘサセラル、ノデアリマス。

今ヤ萬民仰望シタル　皇太子殿下ノ御降誕ヲ拜シマシタ。之ヲ好機トシテ　天照皇大神ノ御神靈ヲ祭祀シ御聖德ヲ仰讃シ、併セテ建國ノ精神ヲ涵養スル爲ニ天照節ナル大祝祭日ヲ制定シ、四大節ニ一大節ヲ加ヘテ五大節トシ、全國一齊ニ式典ヲ擧ゲ、其祝祭ヲ行フ樣ニイタシタイト思フノデアリマス。

但シ其時日ハ、典據ト時期トヲ調査シテ、適當ニ撰定シテイタヾキタイト思フノデアリマス。

仰キ願クハ、私共ノ微衷ヲ容レ、之ヲ貴院議員各位ニ諮ラレ、愼重審議ヲ遂ゲ、全員御一致之ヲ可決シ、其實現ヲ期セラレン事ヲ

右謹ンデ請願イタシマス。

昭和九年二月　日

福島縣石城郡内郷村大字宮字宮深二番地

請願人　農　大内民惠

外　名

衆議院議長　秋田清殿

貴族院議長公爵　近衛文麿殿

（各一通宛）

# 請願彙報

本縣内は勿論、全國各地から多數の御賛同を得たので、愈々本月中旬頃兩議院に提出する事に致しました其本文はこヽに掲げた通りであります。

先きに天祖節天祖祭と二樣に申上げましたつたが、種々研究の結果、天照節といたしました。

私は一月三十日に上京、兩議院事務局に出頭して、書式手續き等に就きて、萬遺漏なく打合せをして參りました。

紹介議員は本縣選出の方々を中心として、政黨政派に係はりなく、擧國一致的に御願する積りで居ります

此請願に對しては、誰方も一議に及ばず賛同して下さり、既に二千余名に達しました。たゞ岡山縣の或方は、神嘗祭は　大神の祭祀を行ふのであるから、別に其日を制定するに及ばぬと申されましたが、或はそうした意味で、神嘗祭を四大節同樣全國一齊に祝典を擧げる樣になれば、それでも大に結構だと存じます。何れ此運動の經過は、すべて本紙上で御報告申上げ、御挨拶にかへる積りであります。

（民　惠）

# 内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。

二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。

三、本村共濟事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。

五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

六、尚餘力を以て、國民善導に當る。

**本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。**

毎月一回一日發行

本紙定價一部金五錢一ヶ年賣税共金四十錢

發行所　福島縣石城郡内郷村宮字宮深二八　内郷村報社

編輯發行兼印刷人　右全所　振替仙臺八四二〇　大内民惠

印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　株式會社平活版廣

# 方面委員の本格的活動

本村を十三區に分ち、それ〴〵受持方面委員の任命があつた事は既報の通りであるが、何れも本村に於ける有力家とはいひ、社會事業に携はる事は、始めての事とて、事務取扱上研究を要する点多きを以て、舊臘一同打揃ふて出縣、社會課に於て一切の指導をうけ、福島郡山兩市に於ける、社會事業の實際を見學し、大に得る處あり、歸來鋭意カード者を調査し、十二月に於て百四十四件、一月に於て百四十九件を取扱ひ、且つ僅少の金品を給與するよりは、副業を奬勵するに如かずと、出縣の際特に川島副業課技師に就きて其方面の研究をもなし、宮本田口兩委員は上京して草履表製作の實況を視察する等、一同苦心慘憺其方策を講じ、結局年末救恤費と併せて、其資金の調達の必要起り、全員手辨當で、金澤上綴區長等の聲援もうけ、二日間に渉つて各炭礦を訪問して懇請したるに、杉山炭礦主は率先五十圓を寄附せられ、五十嵐、水野兩炭礦亦同格を喜捨せられ、其他磐城入山は勿論、十余の炭礦も其大小に應じて、應分應援せらるゝ事を快諾せられたので大に力を得。同時に副業調査會理事草野村議及里見条吉の兩氏より、磐城七濱に於て莫大に消費せらるゝ菰の製造機の採用を提案したるに會し、愼重研究の結果、取敢へず三臺を購入し廣瀬村議が、奉仕的に其救恤事業に携はる事を快諾し愈々來月より之が實施に取かゝる事になり、漸次臺數を殖やして一般カード者の生活扶助をなす事となつた

皇太子殿下の御誕生を賀し奉りて
東京　遠藤二郎

さらにまた國の光ぞてりそはん
天津日嗣の皇子のみかげに

乃木大將

たけびもことあげもせで丈夫の
まことのみちをふみし君かな

阪

あけくれに亭はかゞれど市にゆく
みちに阪ありうだてやま里

## 年末救恤

本村に於ては舊年末に際し、各區長及各方面委員總出動で、困窮者を調査し、百十戸、四百三十三人の人々に餅米代を寄贈する事に決定した。

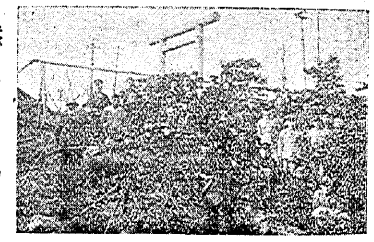
## 遍照講員の特志

遍照講員竹内馬太郎、伊豆田庄五郎、青木フユ、佐藤ブンの諸氏は、寒行御詠歌托鉢によつて得たる淨財全部を共濟會に寄贈した。

## 方面委員の取扱件數

昭和八年十二月分

生活扶助
法令に依るもの　九
法令によらざるもの　四
保健救療
法令によらざるもの　六
兒童保護
法令によらざるもの　五
相談指導　一九
戸籍整理　三
職業其他の紹介　一二
教化　二
其他　三四
計　一四四



（志賀會長・青年會・岩崎兩氏及商店勞務主任・首唱者・親和會・溫造會・友たち）
御殿の庭園

法令に依るもの　一〇
然らざるもの　四
法令に依るもの　二
然らざるもの　六
法令によらざるもの　三四
相談指導　二一
戸籍整理　六
職業其他の紹介　二六
教化　五
其他　三五
計　一四九

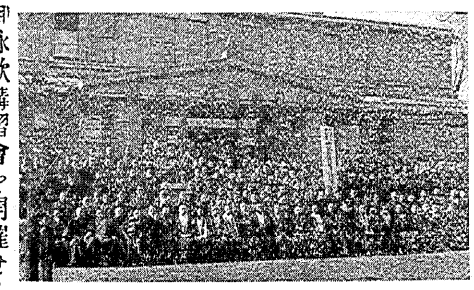
現在カード登錄者
第一種　二〇三名
五八世帶
第二種　五一七名
一三七世帶

## 軍事講演

陸軍省動員課歩兵大尉鈴木嘉一氏の資源調査の爲、來郡したるを好機として、磐炭小島勞務課長主催の下に、一月二十七日淺野翁頌德館に於て、滿洲を中心とした有益にしてしかも耳新らしき講演であつた。聽衆は重立ちたる人々のみにて二百余人。同大尉は陸大出身の秀才で、小島課長が先年在隊時代の教官であつた關係上特に貴重な時間を割いてくれたとの事で、一同其好意を感謝して居つた。

## 御詠歌講習會

遍照講石城聯合會主催、内郷村報社後援で、一月二十一、二十二兩日に渉り淺野翁頌德館に於て奥羽六縣御詠歌講習會を開催せられた。講師は本部師範松岡眞昌師、同布教師岩村義運師で講習生は兩日共三百余人あり、頗る盛會であつた。



御詠歌講習會
（頌德館玄關）

◎本紙賛助金寄贈芳名

金壹圓　内郷　山崎喜一
金壹圓　同　草野三千雄
金壹圓　東京　菊地平之亟
金貳圓　磐炭　エム生
金貳圓　内郷　長谷川憲次郎
金參圓　平　永山小平
金參圓　内郷　赤土興榮
金壹圓　同　樫村好度
金壹圓　同　國分久
金五圓　遍照講石城聯合會
金五圓　川俣　西坂寂榮
金貳圓　内郷　野崎嘉吉


矢野恒太
服部宇之吉　序　大内民惠著
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

福島郡山視察報告
方面委員　猪狩喜平治
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。
我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

竹駒參拜團
カード者地圖等をも拜見、一行として感嘆措く能はざらしめた。それから畫鑒をいたゞき、記念撮影表と[illegible]貧困者の濟生救護を目的とする[illegible]醫師會診療所の完備せるに驚き、公益質庫の成績良好なる實況に敬服し、午後三時發で歸途に就くべく急いで驛に至り、各位の眞に徹底した教育が行はれる樣に思はれた。實科程度であるが、特種の科目については專門家を囑託して、遺憾なきを期して居るとの事であつた。因に同校長も多年米國に居られた關係上我大内常務とは我々は方面委員の任命を受けたが説明指導をうけ、大いに啓發され

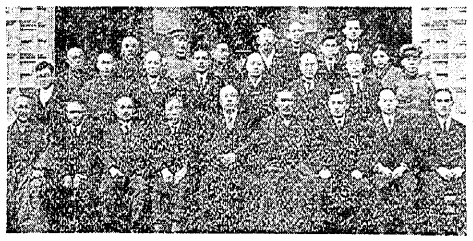


發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　内郷村報社

# 福島郡山視察報告

方面委員　猪狩喜平治

我々は方面委員の任命を受けたが一体どういふ事をするのであるか更に見當がつかない。百聞は一見に如かずともいふし、かたく〳〵磐炭から特に其費用の寄贈もある事になつたので、先つ縣廳で事務取扱方、副業問題等一般の指導を仰ぎ、併せて福島郡山兩市の實況を視察しようといふ事になり、舊臘九日十日の兩日之を實行したのであつた。一行は大内常務委員を東道役として、委員赤土興榮、高原重吉、田中宇一郎、武藤義造、山崎辰亥、猪狩喜平治、宮本鐵太郎佐藤久太郎、松村智清、田口淳三方面書記吉田仙治（區順）の十二氏であつた。



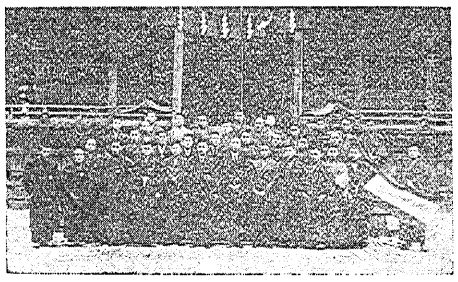
郡山市方面で委員歡待を受け視察を終つた行（昭和八年十二月十日）

第一日（十二月九日）

午前五時綴を發し、十一時縣廳社會課を訪問、照沼主事山口錦織兩主事補からは、諸事項の取扱方、社會事業の施設等に就き、川島技師からは、副業の種類、授産事業等について、何れも詳細懇篤なる説明指導をうけ、大いに啓發される處があり、それより山口主事補に伴はれて、幼兒保育所に至り、宮崎主事の案内説明をうけ、洒掃され整頓されてあるに感嘆し、嬉々として遊んで居る幼兒等に、一掬同情の涙をそゝぎ、次いで隣保館に至る。敷地はさして廣くはないが、新開地で建物が新しく、設備が整ふて居るので頗る氣持がよい、委員藤卷榮作、國分民左工門兩氏等の盡力で市の有力家其他からの援助により建設されたそうで大内貞一氏が之を宰して居られる以上三氏が交々其設立事情より、今日迄の經過成績等について説明して下された。此日縣からは晝餐及二室の自動車を提供して下さつたには恐縮ぜざるを得なかつた。かくて一行は夕刻飯坂に引上げ、立花屋（宿料一圓五十錢）に投宿した。照沼主事が懇々後を追ふて來臨、食を共にして、種々有益なるお話を聞かして下された。其熱心さ、親切丁寧さには之亦感謝ぜざるを得なかつた。

第二日（十二月十日）

早朝飯坂を發し、郡山に着けば、勿體なくも市の委員の方々が、お揃で迎へて下さり、サア〳〵と自動車で、方面事務所である如寶寺に御案内、先つ委員大方少佐の率ゐられる、藁少年團の見事な教練を見せて下さり、茶菓の饗應ありて少憩後、一行は市役所委員室に招ぜられ、前記の方々を始め在市中の委員方も列席せられて恰も郡山内郷聯合委員會の觀を呈した。かくて和氣靄々裡に、市の社會事業一般について、説明指導を與へられ、松山氏のカード、大方氏のカード者地圖等をも拜見、一行をして感嘆措く能はざらしめた。それから晝餐をいたゞき、記念撮影に參詣、松島仙臺見物して之日午後歸山した。竹駒神社の元旦祭には、猪狩擔任が一行を代表して、特に自作にかゝる祝詞を、莊重なる態度を以て奏上した由。而して其經費は昨年春頃より、月掛貯金をしてそれに充てたとの事である。



磐炭竹駒稲荷參拜團（昭和九年一月一日）

## 竹駒參拜團

信仰心深き高坂坑御殿親和會支部有志三十六名は、猪狩擔任佐藤勢務に引率され、舊臘三十一日出發、岩沼町に一泊して、竹駒神社に二年參りをし、鹽釜神社に參詣、松島仙臺見物して之日午後歸山した。竹駒神社の元旦祭には、猪狩擔任が一行を代表して、特に自作にかゝる祝詞を、莊重なる態度を以て奏上した由。而して其經費は昨年春頃より、月掛貯金をしてそれに充てたとの事である。

なし、特に提供して下さつた自動車に分乘して幼兒保育所の到れり盡せりの設備や經營振りを見せていただき、所長今泉刀自に敬意を表し、[illegible]醫師會診療所の完備せるに驚き、公益質庫の成績良好なる實況に敬服し、午後三時發で歸途に就くべく急いで驛に至り、各位の接い處に手の届く樣な歡待を感謝して、お別れした。こゝに其尊名を列して心から御禮を申上げる。

保森覺圓、松山政治、大方倫助、湯淺音彌、河野大徹、上田源八、石田熊丸、横山新藏、高野幸四郎、滋野清登、伊藤義一、市川キヨ、鈴木豊之助の十三氏（順序不同）

途中小野新町に下車、縣立蚕業試驗場支所を訪ひ、堀口場長から副業としての、眞綿製造及其作品について詳細なる説明を承り、引きかへして歴史ある兒童遊園を視察し、横山裁縫女學校を參觀する。校舎は狹隘であり、生徒は百二三十名に過ぎないが、其多くは寄宿生で、特色ある校長の理想の下に眞に徹底した教育が行はれる樣に思はれた。實科程度であるが、特種の科目については專門家を囑託して、遺憾なきを期して居るとの事であつた。因に同校長も多年米國に居られた關係上我大内常務とは一脈相通ずる處あるかの如く、一方は現役教育家一方は教育改革家であるので、談論風發、傍聽者は聊か煙にまかれた感なきにしもあらずで、頗る痛快であつた。かくて次の列車で無事しかも多大の收獲物を得て歸村したのであつた。

以上の視察によつて、我々は一本の注射でもされたかの樣な氣になり、今後仕事をする上にいくらか自信がついたかの感にうたれたのは確かである。こゝに二日間に渉つて、指導し案内して下された皆樣に向つて衷心から一同を代表して、衷心から感謝の意を表して擱筆する。

## 參宮團經費

高坂勢務志賀保治

昨年二月余が宮澤在勤の頃、内郷村報社後援の下に、親和會支部の有志諸君が、月掛貯金で、磐炭空前の伊勢參宮團組織の計畫を立て、萬事豫定通り運んで、去る年末年始の公休を利用して、之を實行された。殊に此擧が　皇太子殿下御誕生第一回の元旦に相當したといふ事は、實に豫期せざる喜びであつた。其概況は一行の井上參謀長が書かれたから、余は其主計役をつとめた關係上、今後之を計畫される人々の參考にもと一人當りの經費は、實際どれ位かゝるものかを、報告しておかうと思ふ。

日數は十二月三十一日出發、一月三日歸還の四日間。費用は汽車賃拾七圓四拾七錢、自動車電車賃參圓五拾錢、宿泊料二泊壹圓參拾錢、辨當拾回分貳圓八拾錢、褒錢紀念印料七拾錢、紀念撮影參拾五錢、雜費六拾八錢、計金貳拾六圓八拾錢で、豫算は貳拾五圓であつたが、汽車賃貳圓五拾錢余超過した爲に、結局壹圓八拾錢の赤字となつた譯である。之が若し三十人以上であつたならば、二割五分の割引があるから、貳拾五圓と若干の小遣があれば十分であると思はれる、宿泊料の一泊六拾五錢は頗る低廉であるが、名古屋京都兩市社會課の紹介なるが故に、まことに勿体ない待遇で、宿には氣の毒な位であつた。尚すべて旅行には身輕に仕度し、携帶品を少くし、お土産は全員がまとめて購入する樣にすれば、大に經濟であると痛感した。終りに愉快に經濟に旅行されていたゞいた事を深く村報社に感謝して筆を擱く。一行は　大内民惠、井上惠助、竹木倉次郎、松崎彌一郎、秋山茂、星新吾、村上芳三郎、伊勢谷重藏、大沼岩太、大和田勇、西田源祐、齋藤進、關熊藏、（以上十五名順序不同）


矢野恒太序　大内民惠著

**教育制度改革概論**

（四六版二一一頁　定價五十錢　郵税六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威　前京大總長小西重直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。



發行所　日本評論社　東京京橋三丁目

取次所　内郷村報社




の研究をもなし、宮本田口兩委員は上京して草履表製作の實況を視察する等、一同苦心慘憺其方策を講じ、出動で、困窮者を調査し、百十戸、四百三十三人の人々に餅米代を寄贈する事に決定した。

時代の教官であつた關係上特に貴重な時間を割いてくれたとの事で、一同其好意を感謝して居つた。

| | | |
|---|---|---|
| 其他計 | 三四 | 金壹圓　牟田國久 |
| 昭和九年一月分生活扶助 | 一四四 | 金五圓　遍照講石城聯合會<br>金五圓　川俣西坂寂榮<br>金貳圓　内郷野崎嘉吉 |

# 伊勢參宮日記

町田勞務派出擔任　井上惠助

宮澤親和會支部有志主催内郷村報後援の下に參宮團が組織せられ記者は其案内役をつとめさせられた日記は參詣長井上擔任の手記である。（民惠）

綴驛頭夜雨を衝いて集る一行十五名、伊藤君の歡送の辭が轟轟たる列車の響に消される三十一日午前一時一分車中の客となる。

やがて雨止み雲霽れ月を宿す車窓に搖らるゝこと約五時、帝都の北門上野に着く、更に省電にて東京驛に至りて下車。

曉靄裡に丸の内一圓の高層建築を見る。曙光に映え輪奐の美更なり、直ちに二重橋前に至り皇太子殿下の御誕生を賀し奉り皇室の御隆昌を祈願す。

櫻田門を抜け内幸町より市電にて早曉の市中を走り午前八時明治神宮に參拜、清澄爽快、片塵をも留めざる眞砂を踏んで朝霧の神苑を逍遥す。大内先生の一首

朝日影さしいる宮の參り道
　木立はまだしもやぞこもれる

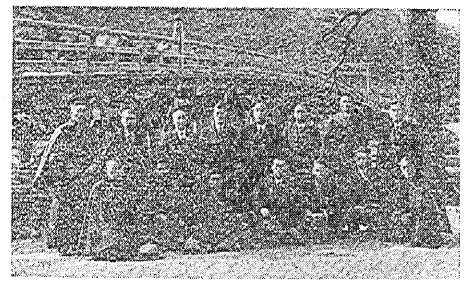
神々しさ云はん方なし。

參拜の記念印章を受け、麗かなる陽光を浴び、代々木原頭に立つ遙か西空に不二の靈峯を仰ぎ感慨無量。

省電原宿發田町下車、浅野社長邸訪問、有名なる紫雲閣に案内され、東洋藝術の粋を蒐めたる其結構と調度とを觀賞し、故翁の雄圖襟度を懷しむ。

午前十一時海上ビルに初見參ながら懷しの吾本社を訪ふ。大晦にもかゝはらず岡部重役以下職員各位の歡迎をうく。花月食堂に於て晝餐の餐應あり、寺見、大澤、森戸、中村の諸賢歡待の勞をとられ吾等の行を盛ならしむべく特に祝杯を辱うし一同大いに感激す。

午後一時四十分新橋ならぬ大東京驛を後にし、日本を壓縮顯現せるかの如き帝都を觀る。大和田先生の鐵道唱歌を口吟み今昔の感にうたる。驛毎に乘客なだれ込み超滿員の態。箱根を過ぐれば芙蓉峯有窓に現れ一行の旅情を慰撫するが如し。晩靄を突いて驀進又驀進灯の街を過ぎ月の海岸を通りて、



五十鈴橋畔に於ける磐城參宮團
（昭和九年一月一日）

午前九時四十五分名古屋に着く。

街の繁華を旅寢の夢枕、驛前丸八旅館に雜魚寢の朝、世は輝かしき昭和九年の元旦、旅館の心盡しも嬉しく雜煮を祝ひ、炭礦の年賀にいとしき吾家に、賀詞の電文をものす。

未明の雜踏にもまされながら熱田神宮の曉參りも無事すまし、金鯱に名高き名古屋城頭に戰國の往時を忍ぶ。

午前八時十五分名古屋を發し山田に向ふ。一[illegible]至に集り諧謔亂れ飛ぶ。窓外はなごやかなる小春日和。

午前十時四十三分神都山田の玄關に降り立つ、先ず外宮に參拜し中食を菊屋の樓上にとる。後電車に搭じて内宮に參詣。宇治橋を渡り身一度神域に入れば、靈威自ら襟を正さしむるものあり、蟲々亭々たる老杉古檜、蒼然幽邃の境、神路山は神祕を語るが如く、崇高の氣たゞよひ、莊嚴胸を打つ。

參詣者道に溢れ賽するもの堵の如し。

大内先生携行のカップもて、一行五十鈴川に若水を汲み交し、宇治橋の袂にてカメラの前に立つ、快哉昭和九年の象兆元日の喜び、幸先こゝに緒ありか。

更に二見を見物、朝暾の勝を想ひ、神都に惜別京都に向ふ。

午後八時十一分京都着、好適なる旅舍泰公館の階上に大阪京都の地圖を開らいて明日の行程を案ず則ち短時間大量遊覽の計畫を立て自動車を連れて疾驅するの議一決す先づ大阪を先とし大阪城四天王寺一覽の後、千日前道頓堀に田舍者の示威行進を目論見、京都に引返しては明治天皇の尊靈鎭まり給ふ桃山御陵の參拜を始めとし、乃木大將の靈を弔ひ下世話に知らるゝ伏見の稻荷、さては棟の柳に名ある三十三間堂に詣で、東山公園の情緒を探り、名も音羽山眺望の勝地清水の寺參り或は智恩院に驚張りの廻廊を渡り、京都奠都の帝桓武天皇の平安神宮に櫻と橘のゆかりを聞き、西郊衣笠山麓なる金閣寺に足利時代の色調を窺ふ等々京都見物の本願成就を本願寺に謝せん計畫用意周到の案成りて一睡明くれば二日元日の企圖空しからず、正に本願の大量遊覽巡拜に大々成功、記念印章の數も四十を算するに至る。尙デパート丸物に土産物を整ふるの余裕を得、黄昏灯の都に心ひかれつゝ京都驛を發す。

名古屋にて乘り換へ長野に向ふスキーヤーの多きに雪國情調を味ひつゝ、進路は木曾路、闇の裡に山せぐくまり溪開くる樣をすかし見る。午前五時七分長野着、三日未明雪を踏んで善光寺參り、闇の長廊佛陀の鍵に觸る。

こゝに一行無事參宮旅行を終へ歸路に就く。兩毛線により水戸に出で、常磐線への連絡に一時間を得、一同祝杯を擧ぐ。

四大都市二大靈地四日の旅、一行元氣旺盛、豫定通り綴に歸着、思はず萬歲を叫ぶ。

伊勢いよく京大阪や名古屋まで
　長野道中無事でめでたし

は大内先生の即吟

茲に吾宮澤一角より國体參宮の儀起り、率先その一員たりしは勞務を職とする者の本懷である。

而も磐炭創業以來の事にして第一回の國体旅行に、低廉無比大々的成功裡に旅裝を解き得て祝福されたる光輝ある昭和九年を迎ふ、眞に慶賀すべき快擧と云ふべきである。

附記　右日記中に錄されたる貴重なる感想は除白なき爲め割愛したる事を筆者及び讀者各位にお詫びいたします。（記者）

# 言行一致

參宮團員　星新吾

去る十二月三十一日より一月三日まで會社公休日を利用致し四日間の豫定で團長大内先生の引率で我等一行十五名は伊勢參宮を致しました。途中先づ社長さんの本邸であるあの有名な紫雲閣を拜觀さして頂ました。數多き東洋の藝術品について一々説明下され只々驚く外ありませんでした。

次に本社を訪問すれば公休日にもかゝはらず岡部重役を始め四人の社員の方が在社せられ手厚い待遇をして下さつたのには恐縮し、感謝する外ありませんでした。

我等は途中無事に目出度大神宮の參拜を終り京都大阪の名所を見物致し豫定通り歸宅致す事を得ました事は團長大内先生を始め井上、志賀の兩勞務係及松崎、竹本兩氏の[illegible]宜しき爲でありました。

殊に井上、志賀兩勞務係に於ては終始あの京大阪の雜踏の中我等の先となり、後となり手を引く如くに引率下された事を私は感謝致します。

次に費用は五十圓かゝる六十圓かゝると言ふ人々があつたのに豫定通り二十五圓と僅かの超過で而も最初の豫定になかつた、大阪方面まで見物出來たと言ふ事は日常我等に言行一致でなければならぬと教へて下さる大内先生なればこそと私は痛切に感じました。

僅か四日間の旅行でありましたが一行十五名は同所で休み、同食物を食べて來たので、色々と生きた學問を教へられ大へんに修養となりましたので、一行の人々に厚く御禮申し上げます。

# 落花生の教訓

參宮團員　村上芳三郎

我々は豫定の時間、豫定の行程で目出度參拜し、各所の見物を終り無事歸宅出來ました事に就ては、團長大内先生始め會計志賀世話役井上兩勞務係に厚く感謝致します此間私は種々感想もありますが、一つ殊に感じた事は、長野驛にて大内先生か一抱もある落花生の大袋を持ち來り外に小袋三十枚を付けて私と一行の星君に、此小袋十五枚へ此中の落花生を入れ十五袋を作る樣命ぜられたので我等は直ちに等分に十五袋を作り「後の空袋十五枚は如何にするのですか」と伺ひましたら「是れは食べ所へ捨てゝ」は驛員にれる空袋だ、大阪方面に入れる樣サア一行に實の袋と空の袋とを一枚宛付けて分配しなさいと言はれた私は此時ほど心致しました。アー之が公益心！一寸した事にも斯くの如しだ、日常の事おして知るに足る。私は是れを見て生きた學問となり、常に我々も此心掛を忘れてはならないと、痛切に感じた。今後は大いに修養を積まふ。長の道中にて私の唯一の感想であり、又修養と成つたのであります。

終りに四日間行程を共にした人々に厚く御禮申上げます。

本紙定價一部金五錢一ケ年前金四十錢
郵送料一部金四錢
發行所　内郷村報社
編輯發行兼印刷人　右金所　振替仙臺八四二〇
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　株式會社　平活版所

# 内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共濟事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、倚餘力を以て、國民善導に當る。

**本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は孫孫に對する遺言を兼ねるものなり。**

請願彙報
本縣内は勿論、全國各地から多數の御賛同を得たので、念々本月中同願兩議院